



**株式会社エージーピー**  
**2008年度(2009年3月期)**  
**決算説明会**

2009年5月19日

# 目 次

---

## ■ はじめに

- ・当社発展の軌跡
- ・当社の事業概要
- ・業績の推移

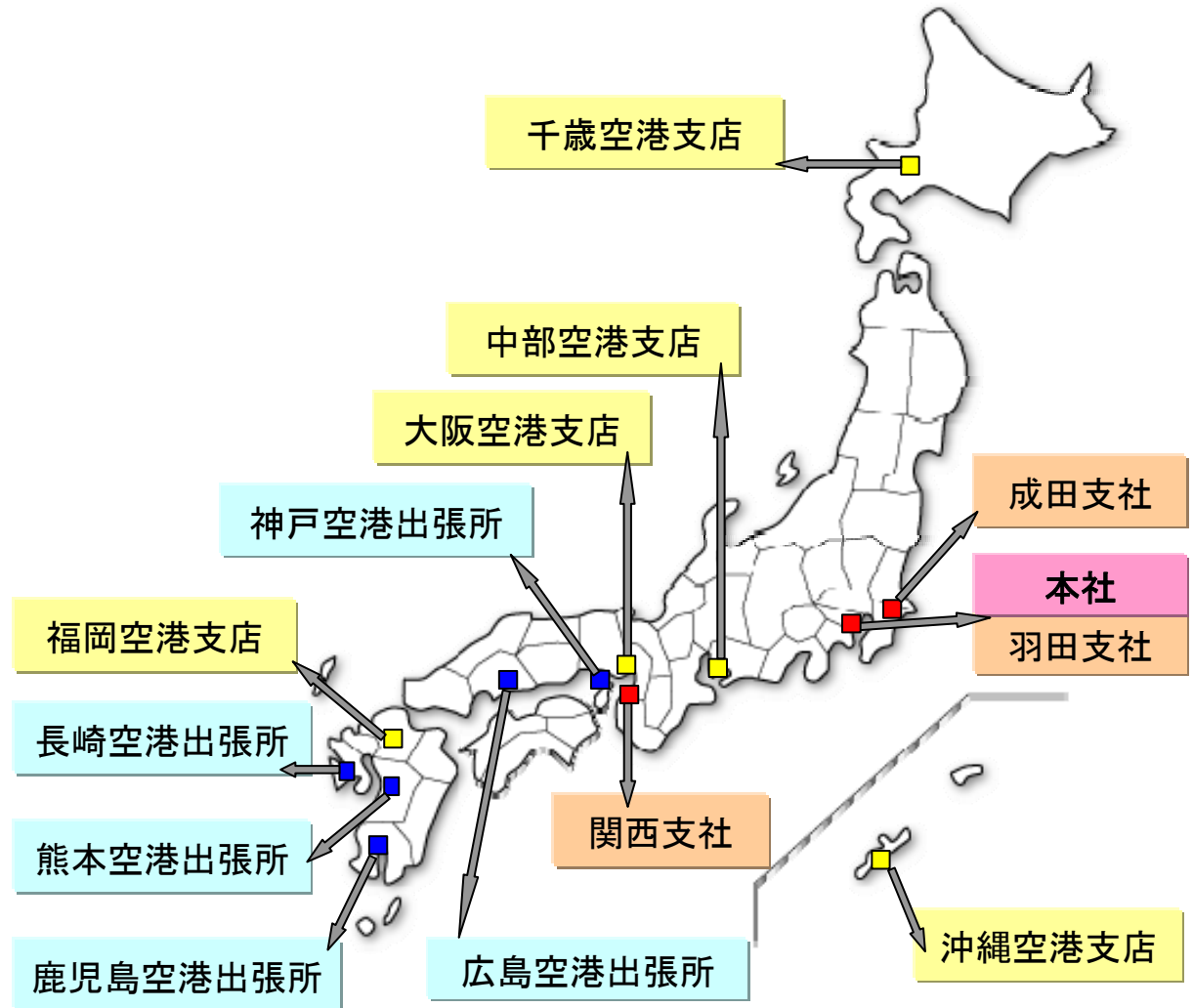
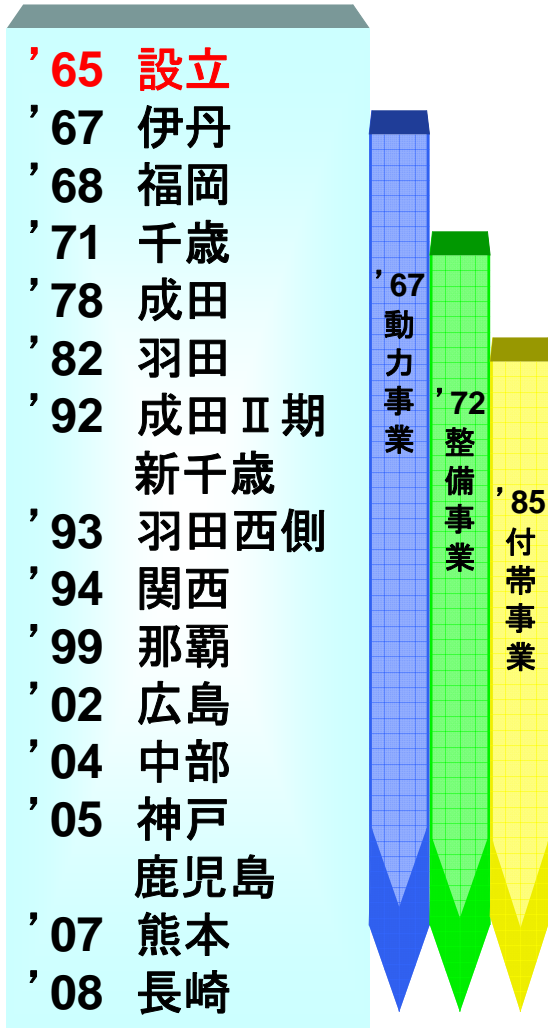
## ■ 経営環境

- ・動力事業の概況と今後の取組み
- ・整備事業の概況と今後の取組み
- ・付帯事業の概況と今後の取組み
- ・中期事業計画
- ・経営の基本方針

## ■ 2009年3月期 業績報告(連結)

## ■ 2010年3月期 通期業績見通し(連結)

# 当社発展の軌跡

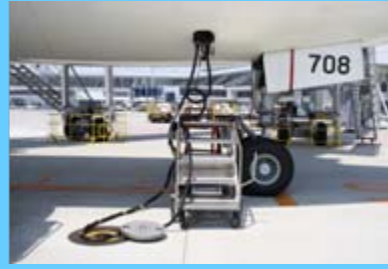


# 当社の事業概要

## 動力事業



GPU(電力供給)



ACU(エアコン供給)

## 整備事業



手荷物搬送設備(BHS)



旅客搭乗橋設備(PBB)

## 付帯事業

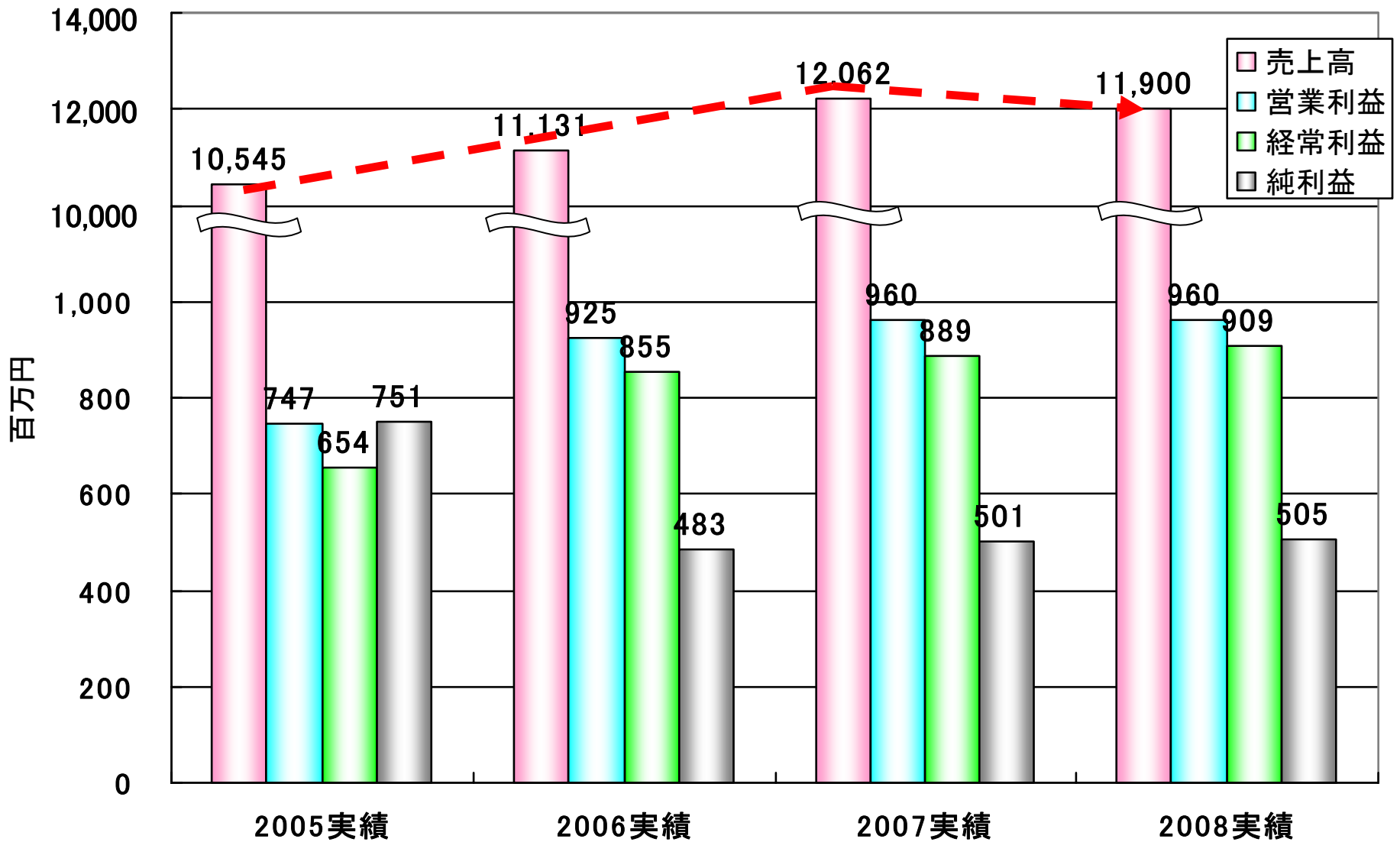


(当社製)保冷・加熱カート



(他社製)温冷配膳車

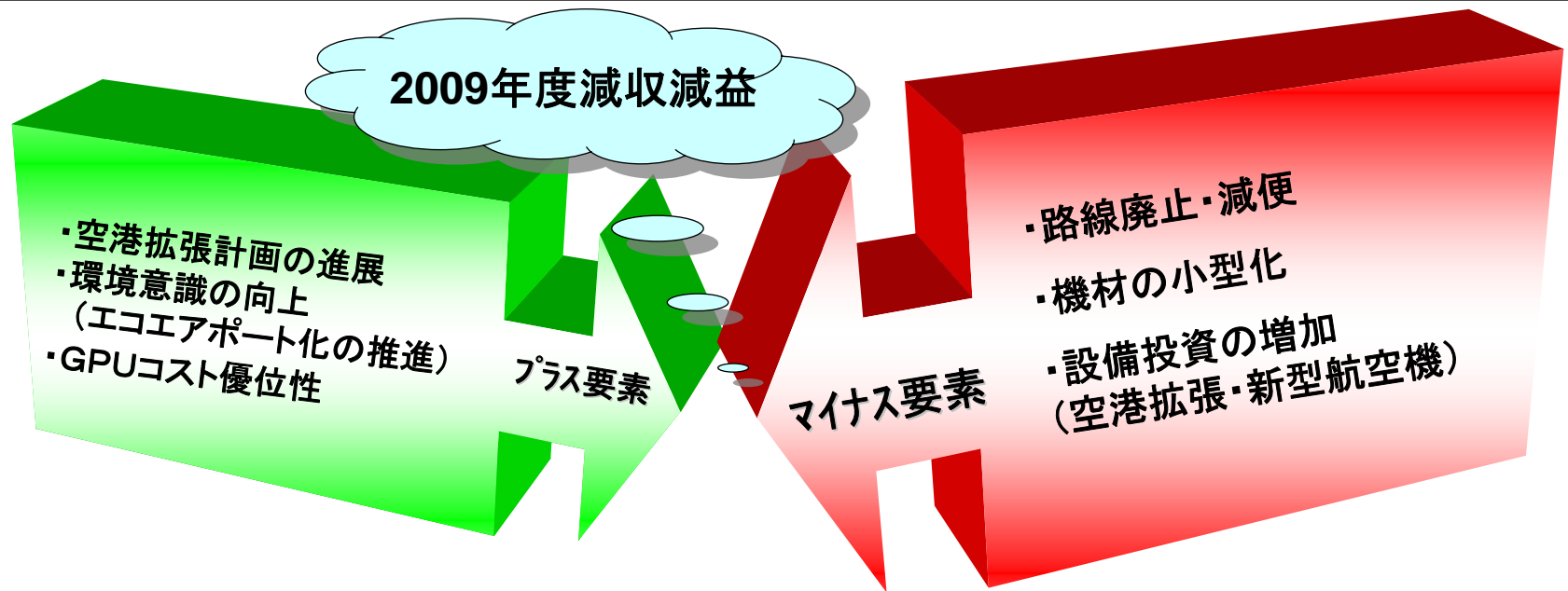
# 業績の推移(連結)





# 経営環境

# 動力事業の概況と今後の取り組み ①

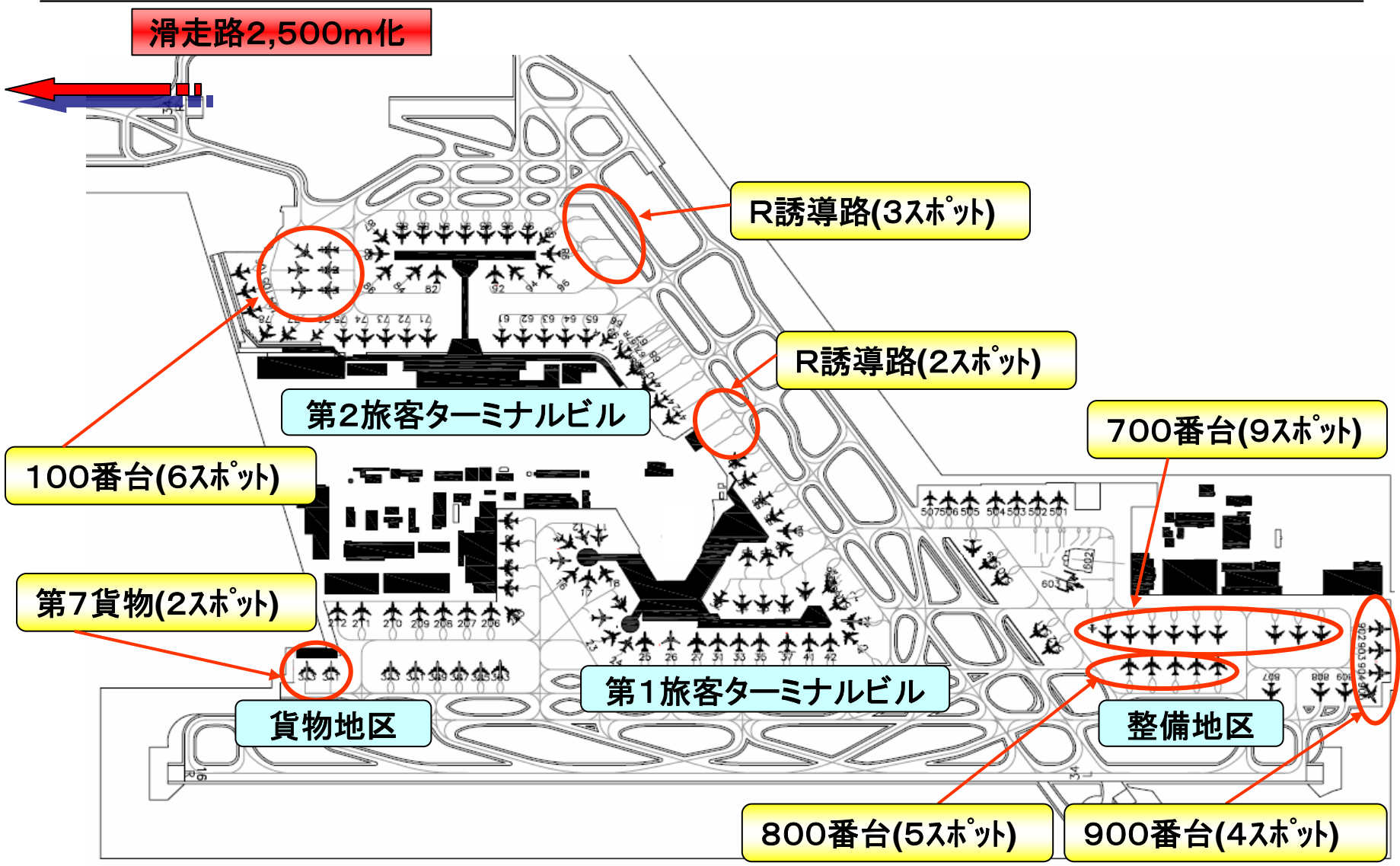


- |          |   |
|----------|---|
| 2010年 3月 | 成田空港平行滑走路 2,500m化 (年間発着枠: 2万回増)                     |
| 2010年10月 | 羽田空港第4滑走路供用開始 (年間発着枠: 11万回増)<br>羽田空港新国際線ターミナルビル供用開始 |
| 2011年 3月 | 準幹線空港進出   |

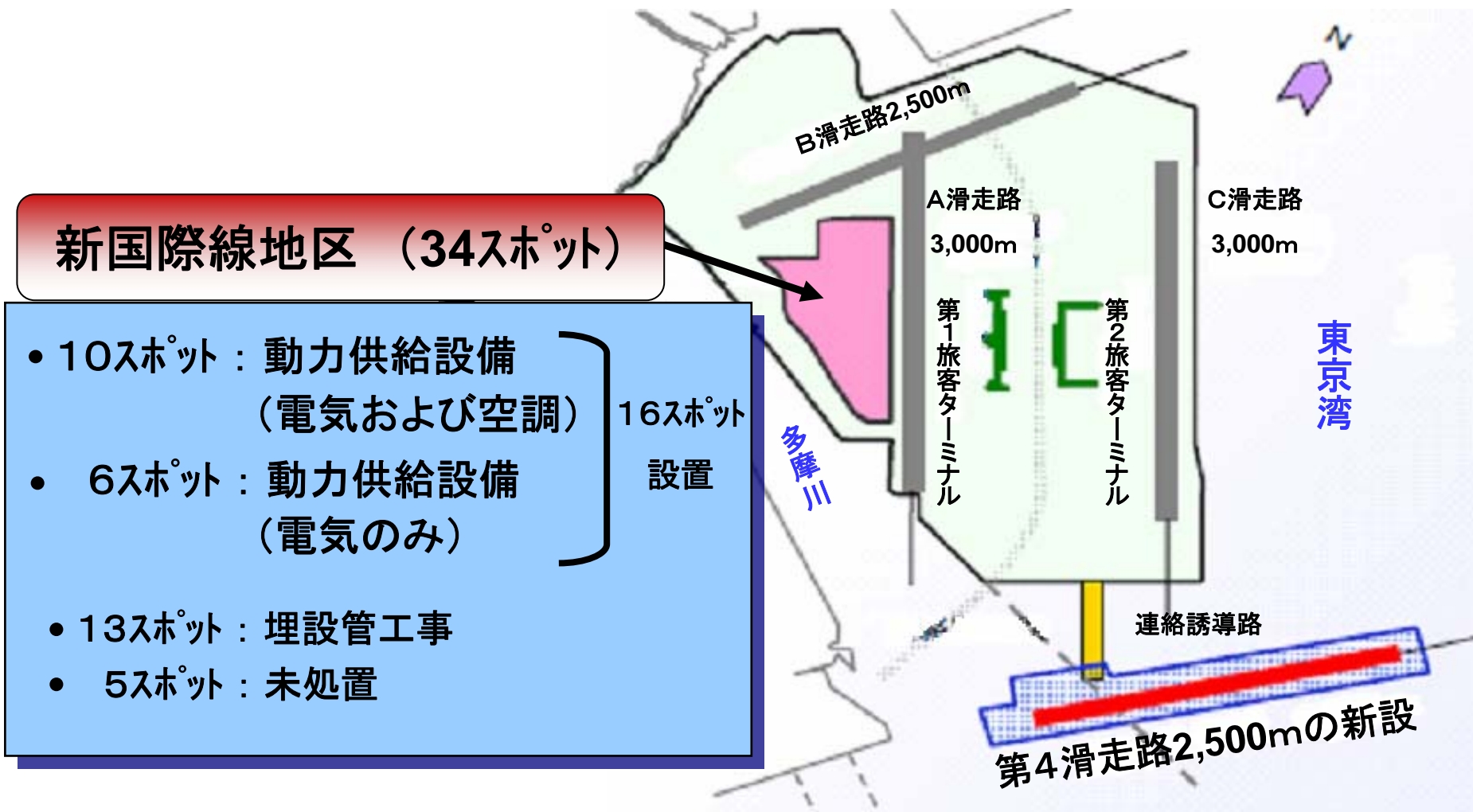
## 今後の課題

新型航空機 (A380、787) への供給設備の大型化と計画的な更新投資

# 成田空港拡張概略図



# 羽田空港再拡張概略図



## 動力事業の概況と今後の取り組み②

### GPUを使用したことによる環境に対するメリット

#### 燃料の削減

(2008年度実績)

- ・B777-200で年間約8,242往復相当  
(15万キロリットル)の燃料を削減

#### CO<sub>2</sub>の削減

(2008年度実績)

- ・東京ドーム 148杯相当  
(年間35.9万トン)のCO<sub>2</sub>を削減

#### 騒音の低減

- ・APUの騒音を抑え、  
空港周辺地域との共生



エコエアポート化へ貢献

# 整備事業の概況と今後の取り組み

手荷物搬送設備インライン化(工事・点検)の業務増があるものの、基本契約の減少による客先の費用縮減が顕著

2009年度  
収益減少

2010年 3月 千歳空港 新国際線旅客ターミナルビルの供用開始

2010年 4月 関西空港 国内線手荷物搬送設備インラインシステムの供用開始

2010年10月 羽田空港 新国際線旅客ターミナルビルの供用開始

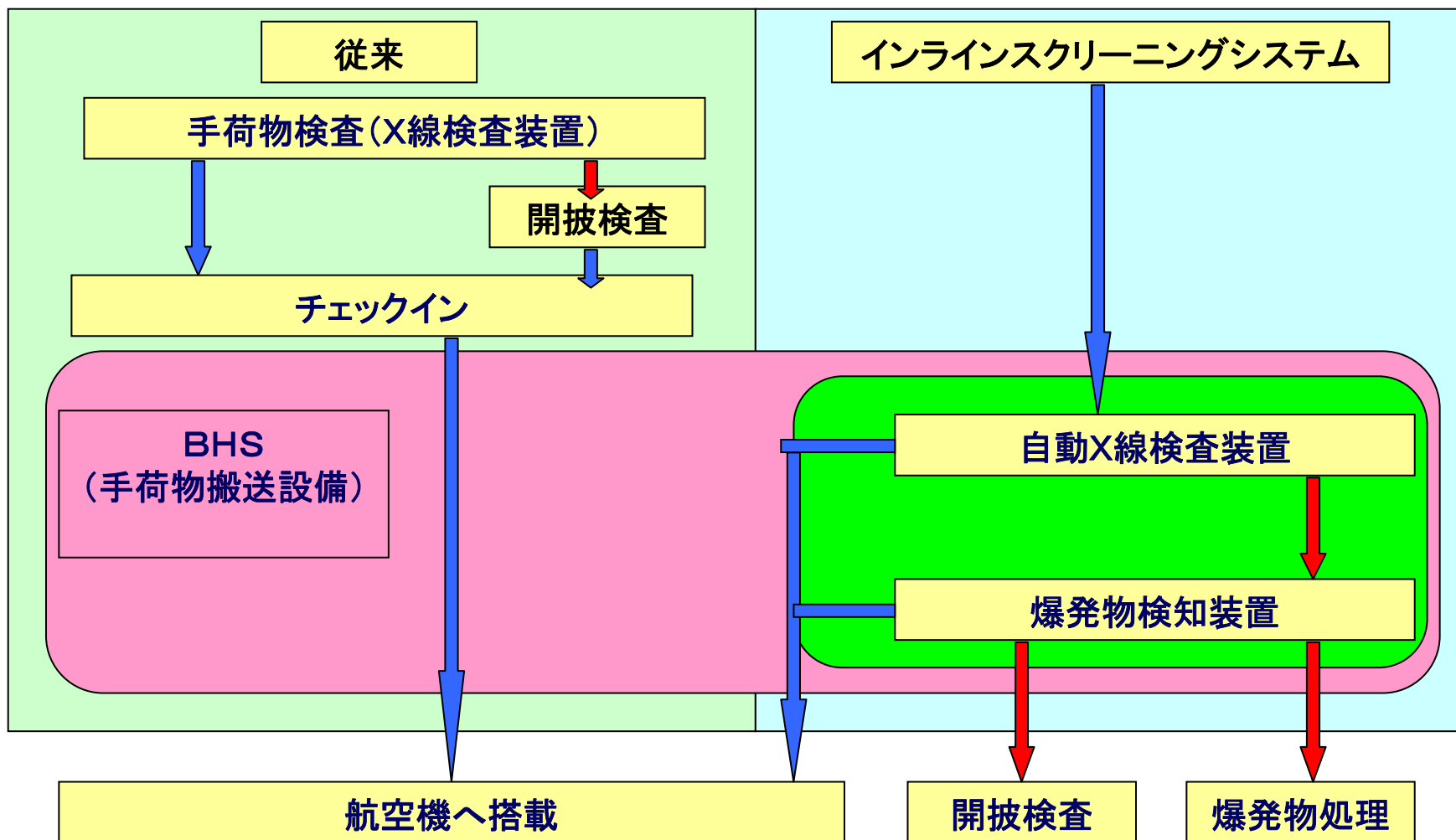
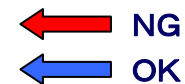
新国際線貨物ターミナルビルの供用開始

## 今後の課題・取り組み

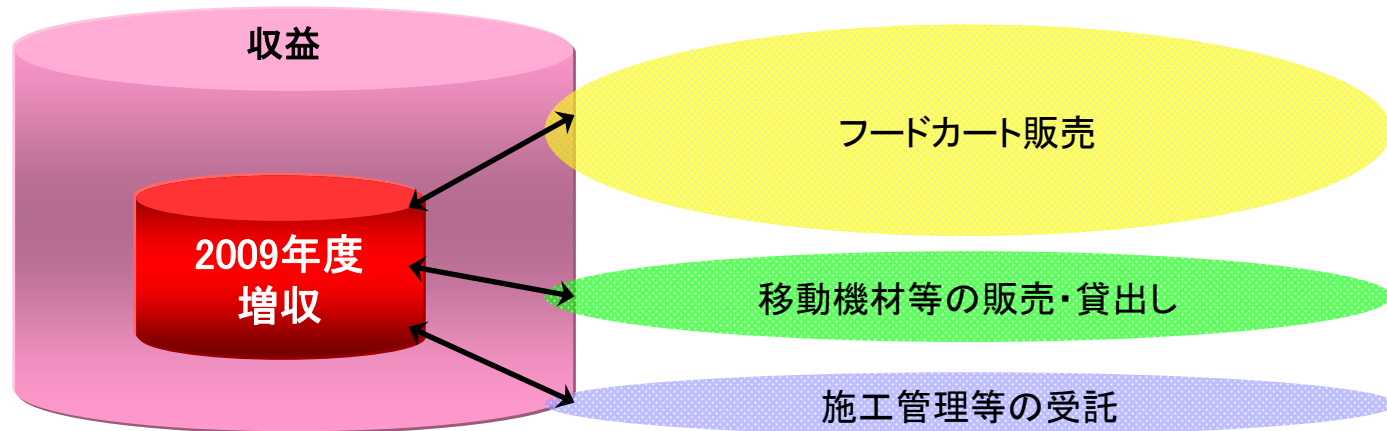
- 特殊設備管理業務の培った経験と技術を活かした積極的な提案型営業
- 24時間勤務体制の構築ができる強みを活かした受託業務拡大
- 物流設備メーカーとの連携強化した空港内外施設の受託拡大

# 手荷物搬送設備 (BHS) インライン化の概要

## ■ インラインスクリーニングシステム



# 付帯事業の概況と今後の取り組み



## フードカートの概況

- ①国の法制度改定の影響を受け、病院・介護施設は苦しい経営状況となり、設備投資活力が縮小
- ②クックサーブ(温冷配膳車)からクックチル(当社の再加熱カート)への移行遅れと、期待している買い替え需要が先送り

## フードカート新商品の開発

長期的な売上の拡大を目指すため、顧客の要望を捉えた新商品の開発を行い、魅力ある商品を投入する

# フードカートの概要

## IH式再加熱カート(電磁誘導加熱)



## EH式再加熱カート(電気ヒーター加熱)



### 特長

#### 1. 軽量・コンパクト・省エネ

- 機内食カートの発展型で、軽量・コンパクト設計
- ピンポイント加熱で、他社製配膳車と比較すると大きさ・消費電力ともに約1/2程度

#### 2. 適温管理・衛生管理

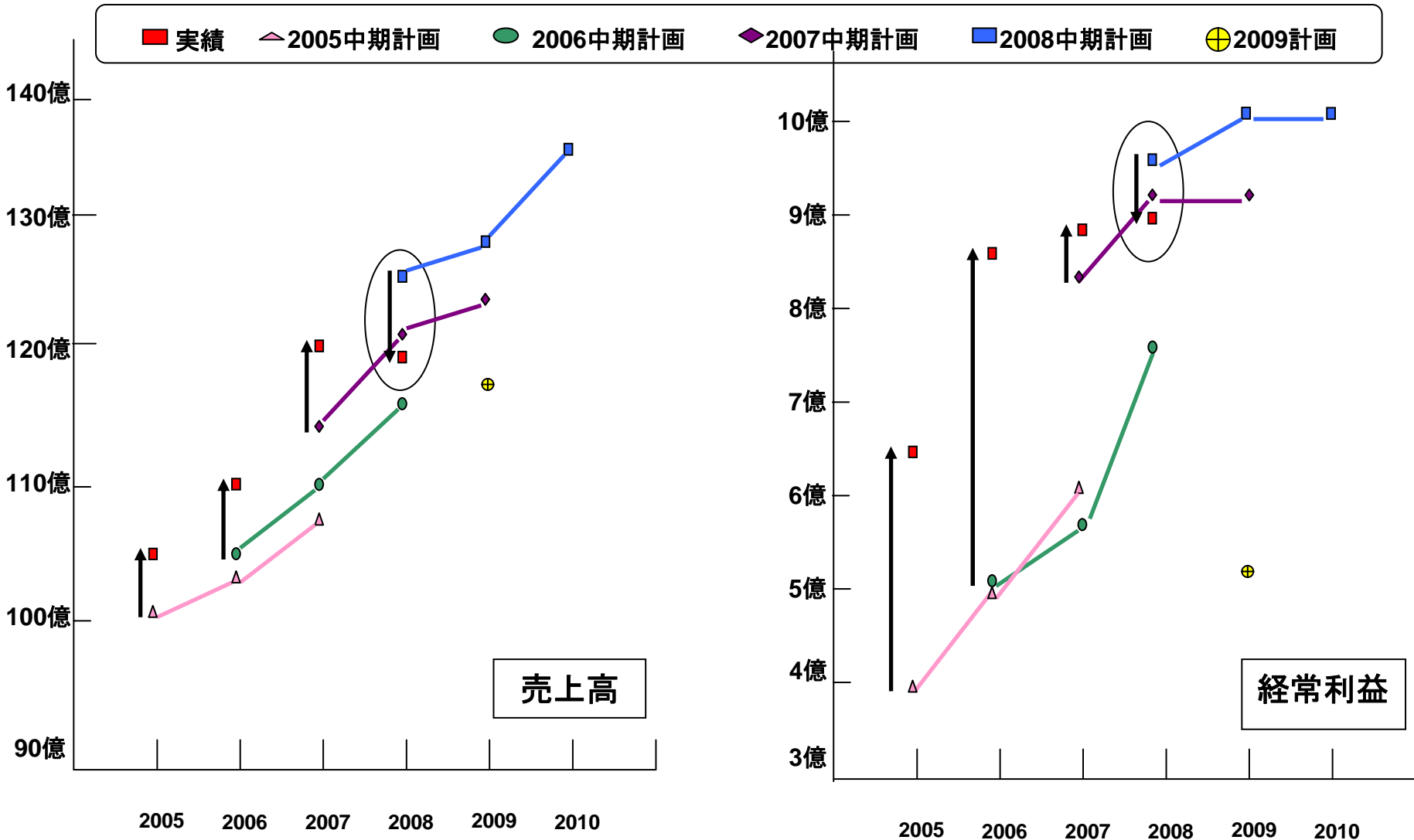
- 冷たいものは冷たく、温かいものは温かいままでサービス可能
- 冷風・温風を循環させないため、食材の乾燥を防ぎ、衛生管理に優れる

#### 3. クックチル対応

- セントラルキッチンなど 計画的な調理も活躍



# 中期事業計画



# 経営の基本方針

## ■ AGPグループのビジョン

社会からの信頼を受ける会社を目指し、  
社会の繁栄と地球環境の浄化保全に貢献する

## ■ 経営方針

- (1) 安全の理念のもとに、良い品質とお客様が満足するサービスを提供する
- (2) コンプライアンスを徹底し、常に収益力の向上、生産性の向上、財務体質の強化を心がけ、会社の繁栄を図る
- (3) 得られた成果は、社会・株主・社員・会社へ還元する
- (4) 動力および整備事業は経営の根幹であり、更なる充実・拡大を図る
- (5) フードカート事業の拡大や新たな事業に取り組み、更なる経営基盤の強化を図る
- (6) 常に空港環境の向上を意識した取り組みを行う



# 2009年3月期 業績報告(連結)

# 2009年3月期 業績

(単位:百万円)

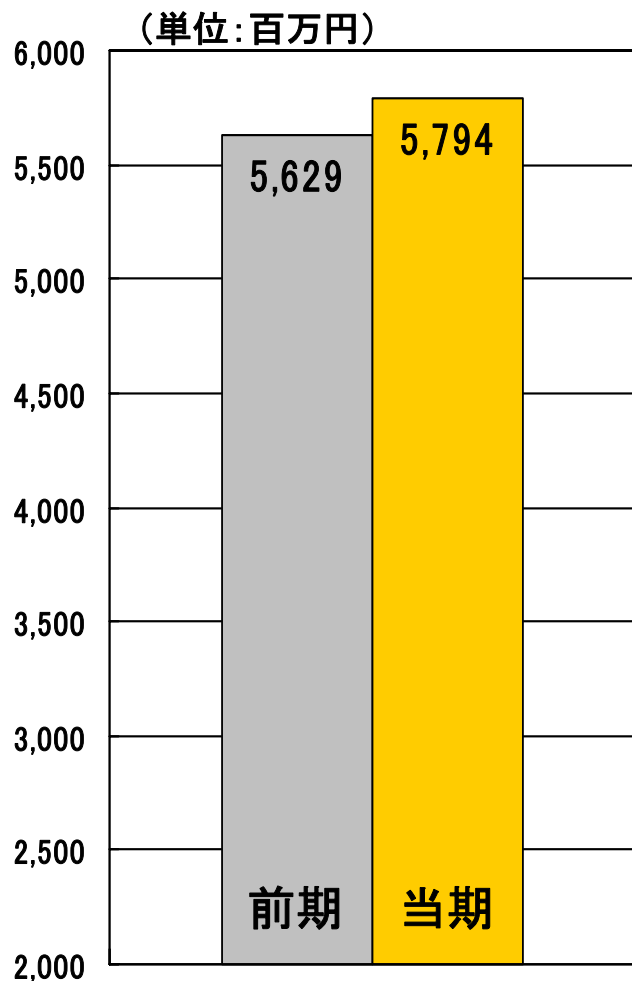
	前期実績	当期実績	対前期比 増減	
売上高	12,602	11,900	△161	98.7%
売上総利益	1,831	1,832	1	100.1%
販管費	870	872	1	
営業利益	960	960	△0	100.0%
営業外損益	▲71	▲51	20	
経常利益	889	909	19	102.2%
特別損益	▲11	▲40	△29	
税引前当期純利益	877	868	△9	98.9%
当期純利益	501	505	4	100.8%

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

# 売上高 ① 動力事業

5,794百万円

前期比 165 (102.9%)



## <主な増減要因>

- ① 国内社のGPU使用徹底による増
- ② 成田・関西空港での外国社使用増
- ③ 熊本空港の供用開始による増
- ④ 小型化による影響

## <支店別>

羽田	+85
那覇	+48
熊本	+16
福岡	+13
伊丹	+12
成田	△30

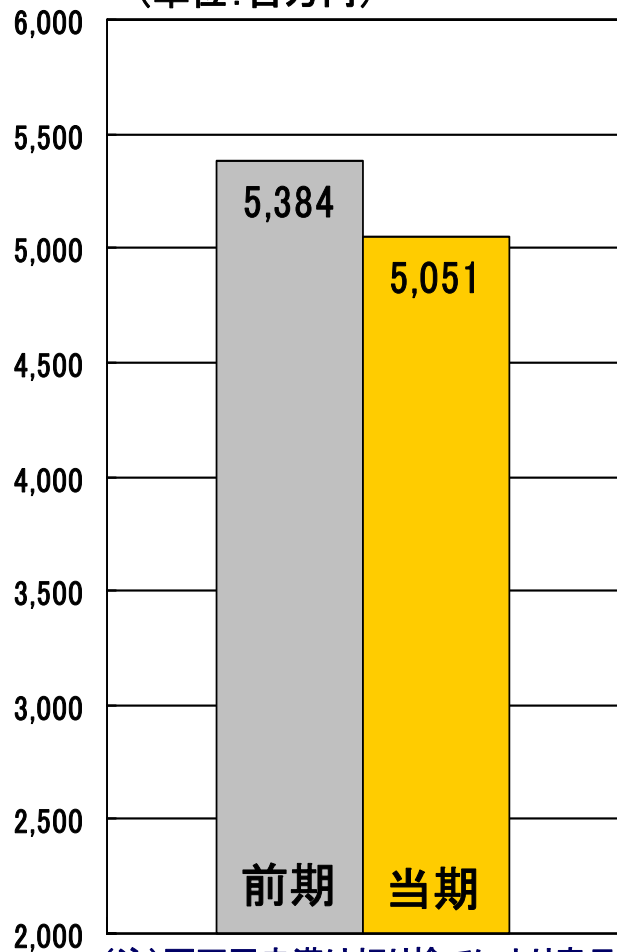
(注)百万円未満は切り捨てにより表示

# 売上高 ② 整備事業

5,051百万円

前期比  $\Delta 333$  (93.8%)

(単位:百万円)



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

## <主な増減要因>

(増加)

関西  
成田

+269 BHS基本契約の増

(減少)

成田  
関西  
その他

$\Delta 501$  施設・設備類の更新・修繕  
作業の減

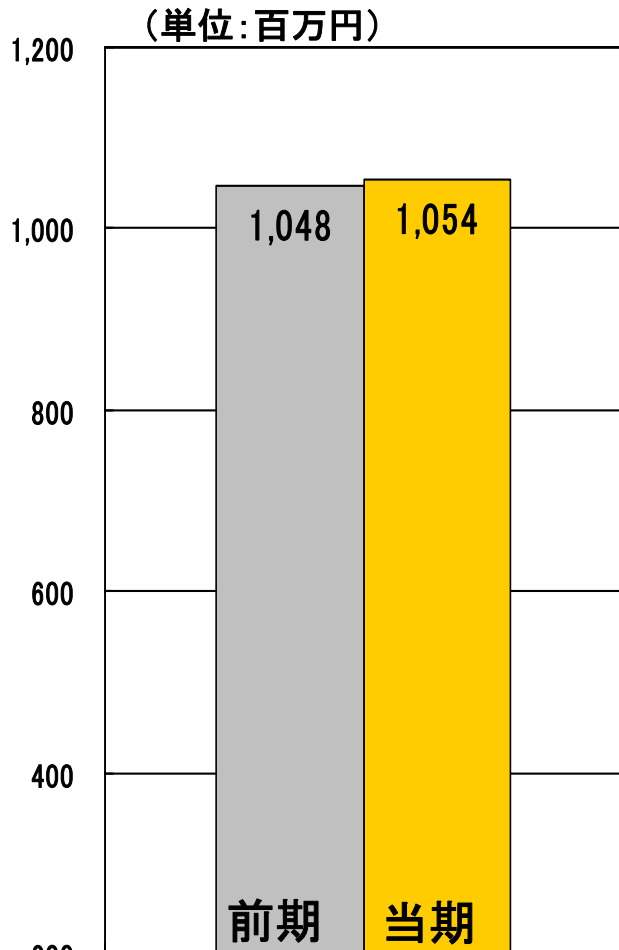
沖縄

$\Delta 111$  ホテル保守契約の減

# 売上高 ③ 付帯事業

1,054百万円

前期比 6 (100.6%)



(注) 百万円未満は切り捨てにより表示

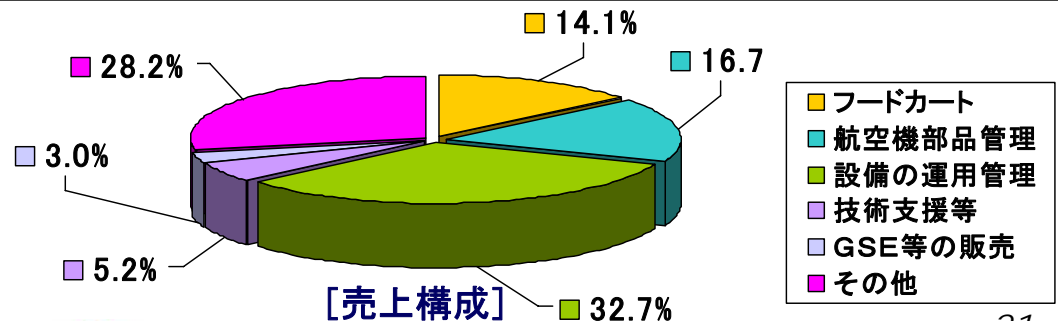
## <主な増減要因>

(増加)

成田 +225 受託手荷物検査装置  
運用管理業務の新規受託  
本社 + 38 フードカートの販売増

(減少)

本社 △254 航空機用電源装置の販売減

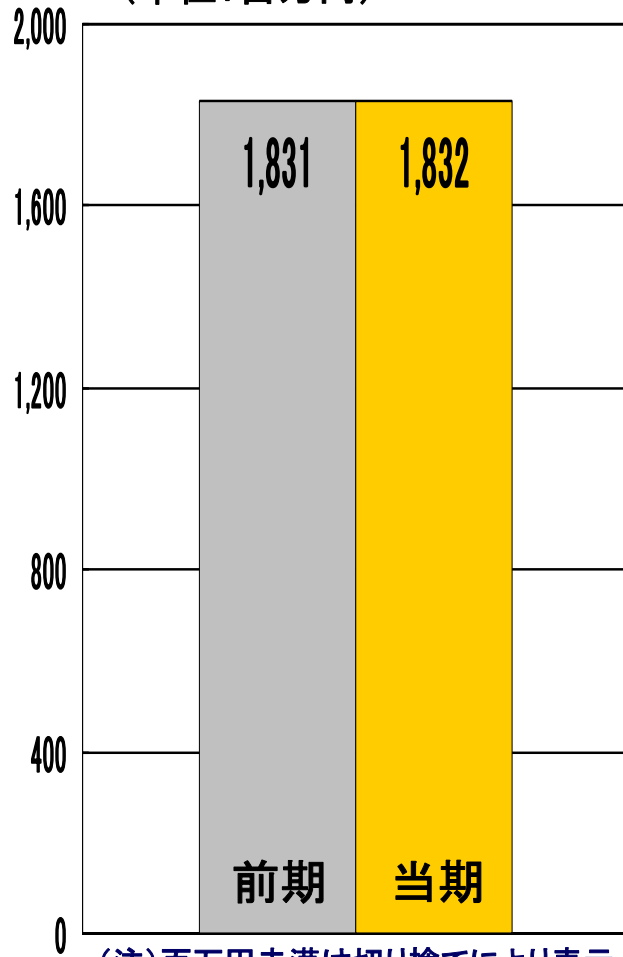


# 売上総利益

1,832百万円

前期比 1 (100.1%)

(単位:百万円)



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

## <セグメント別 主な増減要因>

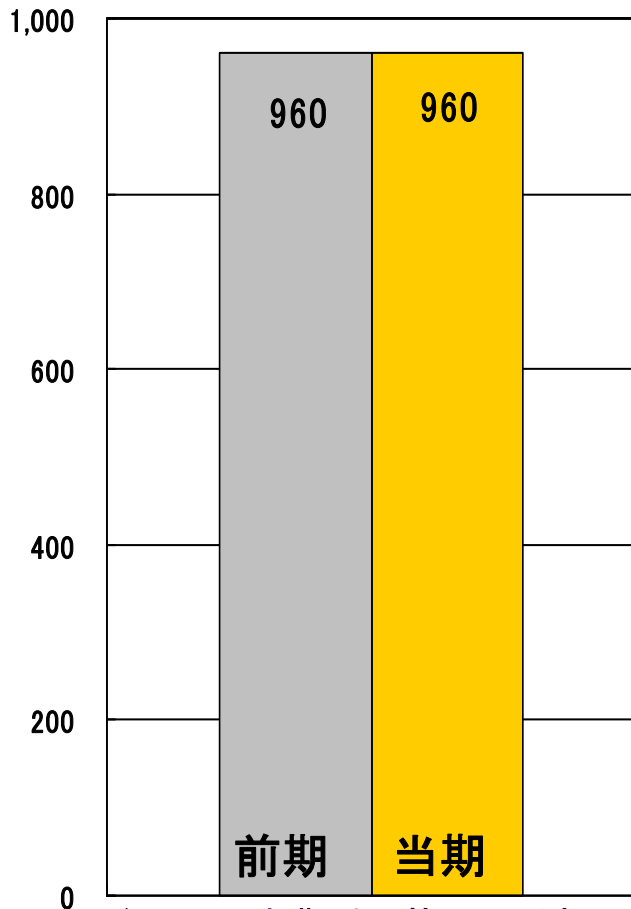
動力事業	+ 57	・原材料費の増	+54
		・整備維持費の増	+32
		・賃借料の増	+24
整備事業	△127	・材料費・外注費の減	△217
付帯事業	+ 71	・材料費の減	△154
		・労務費、委託 役務費の増	+94

# 営業利益

960百万円

前期比  $\Delta 0$  (100.0%)

(単位:百万円)



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

## <主な増減要因>

売上総利益の増 +1

労務費の増等による  
販売費及び一般管理費の増 +1

# 経常利益／当期純利益

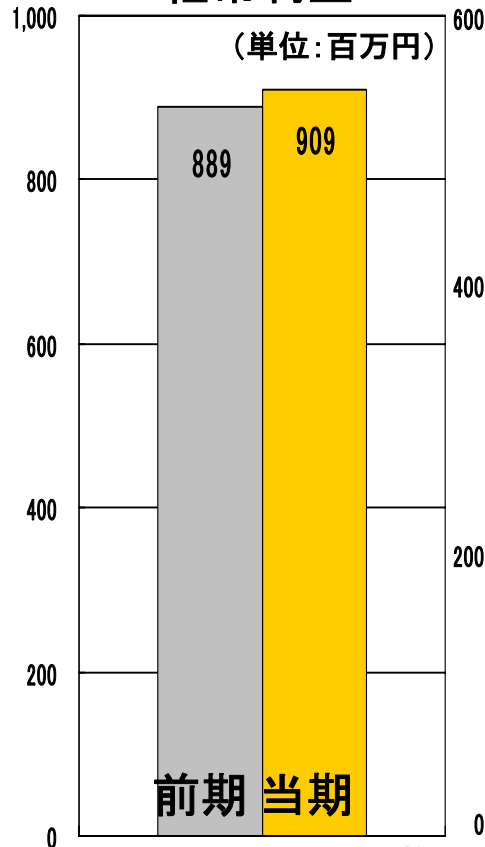
## 経常利益

909 百万円 前期比 19

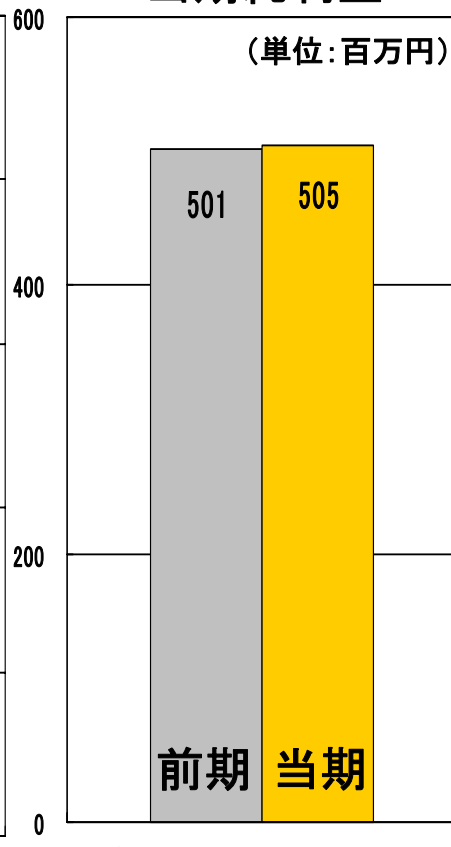
## 当期純利益

505 百万円 前期比4

経常利益



当期純利益



(注) 百万円未満は切り捨てにより表示

### < 経常利益の増要因 >

営業利益	△0
営業外収益(受取利息)の減	△3
営業外費用(支払利息)の減	△23

### < 当期純利益の増要因 >

経常利益の増	+19
特別損失(固定資産除却損)の増	△29
法人税等の減	△13

# 2009年3月期 累計業績(計画対比)

(単位:百万円)

	当期計画	当期実績	増 減	
売上高	12,450	11,900	△550	95.6%
営業利益	1,006	960	△45	95.4%
経常利益	950	909	△41	95.6%
当期純利益	538	505	△32	93.9%

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

# キャッシュフローの状況

(単位:百万円)

	前 期	当 期	
		金 額	主な増減理由
営業活動によるCF	1, 406	1, 355	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金等調整前純利益 868</li> <li>・減価償却費 824</li> <li>・法人税等の支払い <math>\Delta</math>330</li> </ul>
投資活動によるCF	$\Delta$ 1, 104	$\Delta$ 852	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産取得 <math>\Delta</math>917</li> </ul>
財務活動によるCF	$\Delta$ 1, 125	$\Delta$ 939	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期借入金の返済 <math>\Delta</math>805</li> <li>・配当金の支払い <math>\Delta</math>125</li> </ul>
現金及び現金同等物の増減額( $\Delta$ は減少)	$\Delta$ 823	$\Delta$ 436	
現金及び現金同等物の四半期末残高	1, 966	1, 529	

(注)百万円未満は切り捨てにより表示



# 2010年3月期 通期 業績見通し(連結)

# 2010年3月期 通期 業績見通し①

## 売上高(セグメント別)

(単位:百万円)

連結	上期予測	下期予測	通期予測	対前期比 増減
動力事業	2,825	2,767	5,593	△201
整備事業	2,138	2,843	4,981	△69
付帯事業	596	593	1,189	134
売上高計	5,560	6,204	11,764	△136

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

## 2010年3月期 通期 業績見通し②

(単位:百万円)

	2009年3月期 実績	2010年3月期 予測	対前期比 増減
売上高	11,900	11,764	△136
売上総利益	1,832	1,472	△360
販管費	872	879	7
営業利益	960	592	△367
営業外損益	▲51	▲69	△18
経常利益	909	523	△386
特別損益	▲40	▲7	33
税引前当期純利益	868	516	△352
当期純利益	505	295	△209

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

本日は、弊社決算説明会にご参加いただき  
ましてありがとうございます。

本日配布いたしました資料に記載されている  
将来の業績予想は、経営環境の変化などに  
伴い予想あるいは目標対比が変化し得ることに  
ご留意ください。

## お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 広報・IRグループ

電話:03-3747-1631

FAX:03-3747-0707

URL: <http://www.agppgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)

